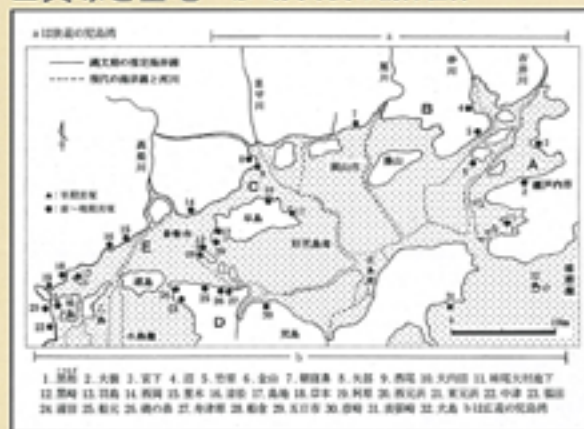


かいづか ぼち
彦崎貝塚と墓地 -彦崎貝塚民の精神世界-



旧児島湾岸の縄文貝塚



4号人骨（壮年女性、縄文時代中期初頭）

彦崎貝塚のお墓は、^{ぎょうがくっそう}仰臥屈葬や^{おうがくっそう}横臥屈葬が多いようです。中には、^{けつえんかんけい}血縁関係にある人たちが^{まいそう}埋葬されたお墓もあります。また、彦崎貝塚では多くの^{かいわ}貝輪と未製品、製作石器類が出土しています。しかし、埋葬人骨に^{そうちやく}装着事例がなかったため腕輪をする習慣が無かった可能性があります。また、ベンガラで赤く塗った土器の中にイノシシやニホンジカの下顎や頭蓋を入れたもの、^{せきぼう}石棒等が見つかっており、当時の人々が行った^{ざらい}儀礼の痕跡と考えられます。

彦崎貝塚へのアクセス



平成24年3月31日編集発行
 〒700-8544
 岡山県岡山市北区大供1-1-1
 製作著作 岡山市教育委員会
 電話086-803-1611
 担当部署 文化財課
 印刷 株式会社 三門印刷所

最近の縄文時代区分

早期(約16,000年前)
前期(約12,000年前)
前期(約7,000年前)
中期(約5,500年前)
後期(約4,500年前)
晩期(約3,000年前)



※岡山市歴史文化資料館では、彦崎貝塚出土品を展示解説しています。
 彦崎貝塚に関する出版物の購入は、要連絡。

A National Designated Historic Site Hikozaiki Shell Mound

Hikozaiki shell mound is located at Hikozaiki, Nadasaki-town in Okayama city. In 1948 and 1949, an investigation team headed by Dr. Hisashi Suzuki (Department of anthropology, Faculty of science in Tokyo University) excavated this site and discovered numerous well-preserved artifacts such as 30 human bones, many earthen vessels, stone implements, bracelets which date back to the Jomon Period of prehistoric Japan. Analyzing the results of excavation, Dr. Sugao Yamarouchi adopted the Jomon pottery found here as the standard type of the Jomon pottery, naming them Hikozaiki Z1, Z2, K1, and K2 style after the name of this Hikozaiki site. Accordingly Hikozaiki shell mound became famous and highly valued in Japan as the most or an important Jomon type site.

As the preservation and utilization of this site had been planned, Nadasaki-town Board of Education (present Okayama Municipal Board of Education) conducted three seasons of excavation from 2003. In 2005 and 2007 a report will be published including the results of this excavation from in 2003 and 2004, 2006.

According to the result of that three times excavation, this site was designated as a National Historic site 28th March in 2008. The total registered area is 6,180.12 square meters.

国指定史跡
 A National Designated Historic Site

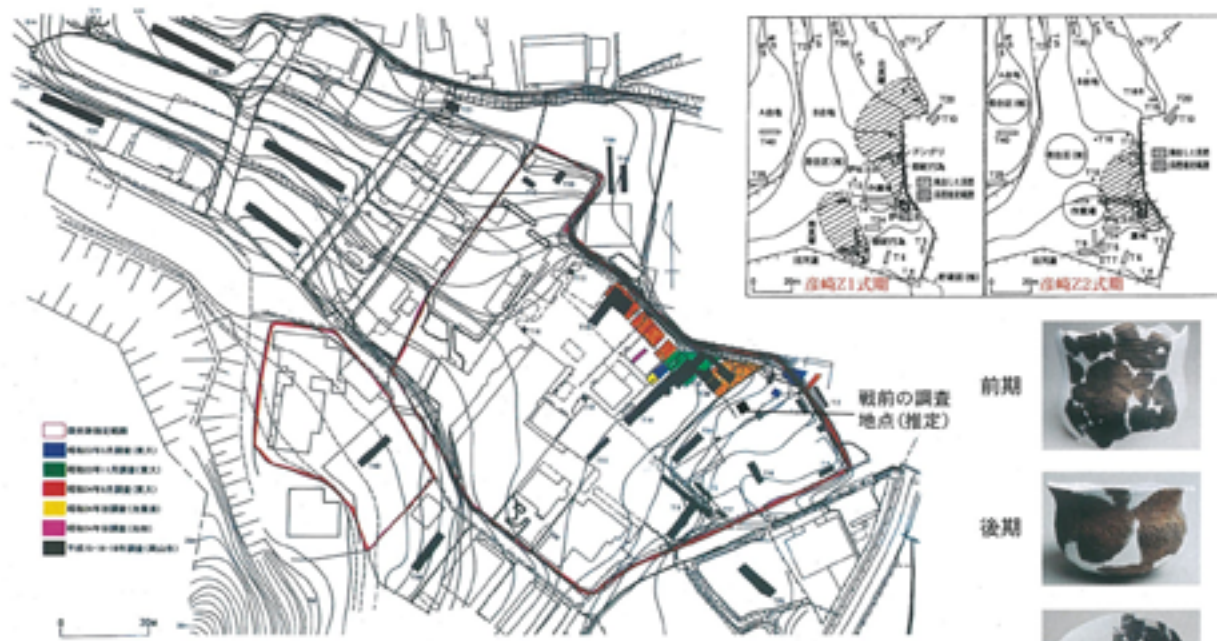
ひこざきかいづか
彦崎貝塚

Hikozaiki Shell Mound



約6,000年前縄文時代前期の貝層（厚さ約1.7m）

岡山市教育委員会



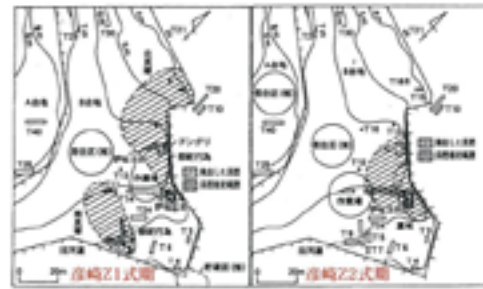
史跡指定範囲と縄文時代前期の土地利用変遷図

遺跡の概要と研究史抄

彦崎貝塚は、岡山市南区彦崎にあり、標高約6mの海岸段丘上に立地します。昭和23・24年、東京大学理学部人類学教室による発掘調査が実施され、約30体の人骨と多量の縄文土器、石器、骨角器等が出土しました。特に土器は、山内清男が、彦崎式土器（Z1、Z2、K1、K2）として認定し、有名になりました。



彦崎貝塚遠景（写真右が北、縄文時代は広大な内湾・干潟が形成されていました。）



貝塚出土土器

多様な食料資源とその利用 - 縄文人の食生活 -



ニホンジカ(左)とイノシシ(下)の骨



ろあと どこう 土坑・土墳墓・柱穴 (前期中期)



多様な動物性食料資源の一部

彦崎貝塚では、46種の貝類と26種の魚類、19種の動物が確認されています。中には稀少種や絶滅種、未同定種もあります。最近、謎の骨がトウカイハマギギギであることがわかりました。



貝塚の貝種は、ハイガイやマガキが主体を占めています。

【いろいろな骨角貝製品】
彦崎貝塚の骨角貝製品は、実用品と装飾品があります。前者では、鹿角製の針・ヤス、ヘラ状製品、鹿や猪の四肢骨製のヤス、ハマグリ製の貝刃等があります。後者は、猪牙製のペンダント・腕輪、貝製の腕輪、椎骨製の小玉等があります。



ドングリの実



トウカイハマギギ

イノシシやニホンジカは、出土する獣骨の中で特に多いことから食料に占める割合が高かったことがわかります。一方、魚類ではマダイ・クロダイ・スズキのほか岡山では馴染み深いサワラ、ママカリ、ブリ等も出土しています。その椎骨は、小玉として墓に副葬される例があります。また、貯蔵穴からドングリ類のシイ・イチイガシの他マメ科の種子等が検出されています。岡山では低湿地型の貯蔵穴からアケの少ないシイやイチイガシ等が検出される事例が多いようです。